

## 北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式を挙 春の叙勲に本学から6氏

お知らせ

・北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設



1 総合IR室：情報を集約・分析して、持続的な発展を目指す

全学ニュース

- 2 北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式を挙
- 3 春の叙勲に本学から6氏
- 10 北大フロンティア基金
- 12 韓国科学技術院（KAIST）と大学間交流協定を締結
- 13 マレーシア・サバ大学と大学間交流協定を締結
- 13 ケンブリッジ大学教授トム・ブランデル卿による特別講演会を開催
- 14 「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙
- 15 北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙
- 16 「韓国北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式及び韓国北海道大学ヨルリョンチョ会発足式」を開催
- 17 平成28年度「全学教育科目に係るTA研修会」を開催
- 17 産業競争力懇談会（COCN）北海道大学サイトビジットを開催

部局ニュース

- 18 経済学研究科がスウェーデン・イエーテボリ大学とダブル・ディグリー・プログラム覚書を締結
- 18 経済学部でメンタルヘルス講演会を開催
- 19 第6回日本学術振興会育志賞－優秀な大学院博士課程学生の顕彰・支援－を環境科学院学生が受賞
- 20 薬学部で新入生歓迎会を開催
- 20 薬学部で平成28年度薬学実務実習開始セレモニーを挙
- 21 理学研究院AL推進室・ALP企画シンポジウム「自然科学のためのアクティブラーニング」を開催
- 22 環境健康科学研究教育センターが第3回「社会と健康」ディプロマ授与式を開催
- 22 教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターで専門研修会「発達臨床セミナー」を開催
- 23 北海道大学病院DMATを熊本県へ派遣



韓国科学技術院（KAIST）と大学間交流協定を締結



平成28年度「全学教育科目に係るTA研修会」

お知らせ

- 24 北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設

レクリエーション

- 25 平成27年度 第28回札幌社会人フットサルリーグに出場

諸会議の開催状況 26

学内規程 26

研修

- 27 平成28年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

表敬訪問 27

人事 28

- 31 新任教授紹介

資料

- 32 役職員数（平成28年5月1日現在）



経済学部  
メンタルヘルス講演会



第6回日本学術振興会育志賞  
－優秀な大学院博士課程学生の顕彰・支援－



薬学部  
平成28年度薬学実務実習開始セレモニー



環境健康科学研究教育センター  
第3回「社会と健康」ディプロマ授与式

表紙：北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式（関連記事2頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景㊦ 森林鉄道蒸気機関車・雨宮21号

## 総合IR室：情報を集約・分析して、持続的な発展を目指す

副学長 よしみ 吉見 ひろし 宏



4月1日付で副学長に任ぜられ、分担する職務として総合IR室担当となり、併せて総合IR室長を命じられました。

### 総合IR室の設置

2014年8月に、本学は「北海道大学近未来戦略150」を公表し、創基150周年を迎える2026年に向けた中長期的な戦略を明らかにしました。そこでは、5つの目標のうちの一つとして、総長のリーダーシップの下で組織、人事、予算制度改革を行うこと、これにより持続的な発展を見据えた大学運営を行うことが示されています。そのための計画骨子の一つに、「教育、研究、運営に関する情報を収集・分析し、諸活動の改善を支援するとともに、外部に対する説明責任を果たすIR（Institutional Research）を推進する」ことが挙げられています。その遂行のために、昨年7月1日、総長直轄の組織として総合IR室が設置されました。

### 大学のIRとは

一般にIRというと、株式公開企業等が、投資家に対して自社の財務情報を中心とした情報を提供することを指しますが、これはInvestor Relationの頭文字を取ったもので、本学の総合IR室が担うIRはもちろんこれとは異なります。

大学には様々な情報がありますが、必ずしも継続的に作成されていない、あるいは学内に点在し、共有されていないのが実情です。それは、本学のような大規模大学では特に顕著といえます。一方で、総長のリーダーシップによる大学運営は、今後一層求められるところです。総長が適時適切に意思決定を行うために、そのよりどころとなる情報を集約し、その調査研究を行うこと、それが大学におけるIRの役割です。もちろんその結果は、大学内外に向けて発信されます。

大学のIRは、我が国のすべての大学にとって重要な取り組みですが、まだ緒に就いたばかりの、試行錯誤的な活動でもあります。規模の大きな国立大学で、総長直轄のIR組織を持つこととした本学の姿勢は、我が国の他の大学から注目されているところでもあります。

### 北海道大学ファクトブックの公表

昨年7月に発足以降、総合IR室は、まず本学にある情報の収集と、比較可能な他大学の情報の収集を行ってきました。その結果、本年3月に「北海道大学ファクトブック」を作成し、公表しました。冊子版も作成していますが、学内向けには、本学ホームページ（学内専用教職員用ページ）にも掲載しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

本年以降も、比較可能な情報を蓄積するために「ファクトブック」掲載情報のブラッシュアップを行っていきます。それとともに、情報の調査研究も進めていくこととし、特に総長からの下命に基づいたテーマで分析をしていくこととします。

### IR推進にご協力ください

総合IR室では、情報の集約のために、日常的に多くの情報を作成する主要組織には、IR連絡員の設置をお願いしております。IR連絡員を通じ、あるいは各部局の事務部を通じまして、今後、総合IR室から情報提供のお願いをすることも多かろうと思います。教職員の皆様には、総合IR室の活動にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。また、「ファクトブック」などを通じ、ぜひ本学の現状について関心を寄せていただき、本学の抱える課題について共通認識をお持ちいただければと存じます。

## ■全学ニュース

# 北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式を挙行



授与式記念写真

4月27日（水）、事務局新館大会議室において北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式を執り行い、役員、部局長等参列の下、山口佳三総長から喜田 宏名誉教授に記念楯が授与されました。

北海道大学ユニバーシティプロフェッサー制度は「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」の策定を機に、教育研究の一層の推進に資することを目的として、平成27年1月に創設したも

のです。世界的に極めて顕著な教育研究業績を挙げた方のうち、長期にわたり本学の教育研究の進展に寄与すると認められる方へ称号を授与します。

この度、北海道大学ユニバーシティプロフェッサーの称号を授与された喜田名誉教授は、平成17年に日本学士院賞を受賞され、現在も人獣共通感染症にかかる研究開発プロジェクトを多数牽引されるなど、精力的に本学の教育研究の推進にお力添えいただい

ます。

授与式では、喜田名誉教授から「これまでの研究活動が認められ、称号をいただいたのは大変名誉なこと。今後もインフルエンザ対策を進め、後進の育成にも力を注ぐ」とのお言葉がありました。

（総務企画部人事課）

## 春の叙勲に本学から6氏

この度、本学関係者の次の6氏が、平成28年春の叙勲を受けることについて、4月29日（金）に発表となりました。

勲章	経歴	氏名
瑞宝中綬章	名誉教授（元 薬学部教授）	金岡 祐一
瑞宝中綬章	名誉教授（元 工学研究科教授）	落藤 澄
瑞宝中綬章	名誉教授（元 医学部教授）	大河原 章
瑞宝中綬章	名誉教授（元 医学部教授）	児玉 讓次
瑞宝中綬章	元 事務局長	若松 澄夫
瑞宝単光章	元 副看護部長	福島 洋子

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



かなおか ゆういち  
**金岡 祐一 氏**

### 感想

一科学徒として北大教授25年間は、専門のChemical Biology（バイオニアの一人）の研究はもとより、国際学会発表、海外研究者との交流等、常時欧米を駆け廻り、存分に働かせていただきました。しかし思えば、当然の専門上の仕事を自分なりに務めただけであり、それがもし叙勲に値するというのであれば、ただ光栄としてお受けいたしましょう。

私は北アルプス立山連峰をはるかに望む富山市郊外に産まれた田舎者です。生家は「薬屋」で、横庭の一部にはトロッコ、後庭には小さい製粉工場が終日動いていました（今は富山県民会館分館の金岡邸）。祖父は金沢薬専、父は東大薬学科卒業で、富山薬専教授、ドイツ留学を経てテイカ製薬株式会社を創立。このような「とやまの薬屋の息子」であった私は、旧制富山高校を卒業後、自然な流れで東大薬学科へ進学しました。大学院を経て北大医学部薬学科講師、1年後助教授、昭和41年に教授になり25年。薬学部長、触媒化学研究センター長等を務め、この間、昭和34～36年に留学したNIH（アメリカ国立衛生研究所）で日本特有の狭い専門家根性を叩き直され、以来、タテワリの日本流を捨てヨコワリへ。「ブレイクスルーは学際研究から」が、私の一生の信条となりました。「タテワリは常に不毛への道」（金岡の法則）。現役時は私なりに仕事をしたと思います。例えば私が編成した日本チームがNaチャンネル

ル研究で世界制覇。これらの研究成果は、「Science, The Endless Frontier」ファルマシアVol.42 No.7（2006年）に総括しました。

退官後、帰郷しすでに20余年。学校法人富山国際学園、テイカ製薬株式会社、共に個人的事情から関わらせていただけてきました。富山の皆様には「県へ帰ってきた男」として大変お世話になっていることを心から感謝します。

今さら何を、と言われるでしょうが、そもそも叙勲とは何か。賞状はこの締め切りまではまだいただいていませんが、天皇から授与されるものでしょう。従って、ある分野における貢献として叙勲が授けられ、有難くそれを受けるということは、改めて私も国民の一人として、国益に沿う行為をしたことになるのかと思います。当局におかれては、今後も一層検討を続け、適切な叙勲候補者選定に努めていただきたいというのが、私の希望でありこの小文の結論です。

感謝と共に。

### 功績等

金岡祐一氏は、生体分子が機能する化学反応の本質を有機化学的に追求し、新しい有機合成試薬と新原理による加水分解酵素の阻害剤を設計・開発し、薬物創出の近代領域である創薬化学の端緒を開かれました。加えて、酵素活性の高感度定量試薬の開発、新原理で蛍光性に変化する有機分子の発見と微量タンパク質の検出・解析試薬の開発などの多くの機能性有機化合物を誕生させ、世界的に興隆期にあった有機化学と生化学を融合した先端的領域である生物有機化学をリードされました。

また、分子の光吸収で生じる高エネルギー状態を研究する光化学の開拓と応用を推進し、新反応の発見と複雑な化合物の新規合成法を開拓し、さらに光反応でタンパク質を人工的に標識し、その機能構造を解析する新手法を開発されました。本手法は共同研究者に引き継がれ、ライフサイエンスの先端的手法の一つとして日本が世界をリードしています。

さらに、ナトリウムチャンネルとカルシウムチャンネルは、対応するイオンの通過で神経細胞膜のシグナル伝達機構を担うという、40億年の進化で形成された高機能巨大タンパク質であり、その重要な機能構造決定という歴史的ブレークスルーを達成されました。光化学、合成化学、分析化学、生物化学を融合させ、低分子から生体高分子に及ぶそれまでの広範な基礎研究を集大成させた功績は傑出しています。

以上のように、同氏は我が国のライフサイエンスの黎明期において、有機化学と生物科学を結ぶ学際的研究領域開拓に世界で先進的役割を果たされました。

学外においては、稀にみる多くの大学設置審議会専門委員、学術審議会専門委員、薬学視学委員、科学技術庁航空・電子等技術審議会専門委員、日本学術会議化学系・物理系薬学研究連絡委員会等を歴任されました。日本薬学会会頭を務められ、さらに平成9年には、日本学術会議会員活動では薬学系として初めて第7部部長の任を果たされました。

同氏は、国立大学36年、私立大学20年にわたり公私の大学運営・教育に尽力されました。国立大学での研究・教育の業績を核として、退官後の全国・学術への貢献と私立大学での尽力と併せ、我が国の学術・高等教育界への貢献は、全国でも比類のない総合的業績であります。

略 歴

- 生 年 月 日 昭和3年2月25日
- 昭和30年10月 東京大学医学部助手
- 昭和31年4月 北海道大学医学部講師
- 昭和32年5月 北海道大学医学部助教授
- 昭和40年4月 北海道大学薬学部助教授
- 昭和41年4月 北海道大学薬学部教授
- 昭和56年7月 } 北海道大学評議員
- 昭和58年5月 }
- 昭和62年6月 } 北海道大学評議員
- 平成元年6月 }
- 昭和62年7月 } 北海道大学薬学部長・薬学研究科長
- 平成元年6月 }
- 平成元年4月 } 北海道大学薬学部附属薬用植物園長
- 平成3年3月 }
- 平成2年4月 } 北海道大学触媒化学研究センター長
- 平成3年3月 }
- 平成3年3月 北海道大学停年退職
- 平成3年4月 北海道大学名誉教授
- 平成3年4月 } 学校法人富山国際学園富山女子短期大学教授
- 平成5年11月 }
- 平成5年9月 学校法人富山国際学園理事長（～現在）
- 平成5年11月 } 学校法人富山国際学園富山短期大学学長
- 平成24年3月 }

- 平成13年7月 } 学校法人富山国際学園富山国際大学学長
- 平成19年6月 }
- 平成16年6月 社会福祉法人富山国際学園福祉会理事長（～現在）
- 平成24年5月 富山短期大学名誉学長

（薬学研究院・薬学部）



おちよし きよし  
落藤 澄 氏

感 想

この度は、叙勲の栄を賜り誠に光栄に存じます。ご高配を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げます。

私は、昭和39年10月北海道大学工学部衛生工学科の助教授に採用され、同53年4月教授に昇任し、平成12年3月定年退職しました。36年間学部と大学院の教育と研究に専念することが出来ました。

研究面では一貫して室内環境と暖冷房のためのエネルギー利用に関する研究を行いました。

初期の研究は、積雪寒冷地の建物の室内環境と熱負荷について広範な実測と理論解析を行い、その特性と寒冷地の問題点を明らかにしました。その成果に対して空気調和・衛生工学会から論文賞を授与されました。その後は地域暖冷房、熱電併給、排熱利用など都市域を対象を挙げたエネルギーの有効利用に関する研究を行いました。

石油危機以後は、暖冷房と空気調和のための長期（季節間）蓄熱に関する研究を行いました。「地中蓄熱」「帯水層蓄熱」及び「地中熱源ヒートポンプ」の一連の研究であります。本研究は大地の膨大な熱容量に着目した我が国では殆ど類例を見ない新しい工学分野であります。地域性、省エネルギー性、地球環境の観点から研究室が長年にわたって取り組んできた研究であります。上記の3つの論文に対して空気調和・衛生工学会から論文賞を授与されました。若い先生達を中心になって進めてきた研究であり、研究室は大いに励まされました。

後半の研究は、ローエネルギー実験住宅を学内に建設し、これまでの研究成果の実用化を目指すとともに、太陽、大地、大気（換気）など自然エネルギーをハイブリットに活用した「エネルギー自立型住宅の構成と評価」に関する研究を行いました。その結果は、エネルギー自立型都市を目指した国家プロジェクト研究の中心的役割を果たすことが出来ました。研究論文は、同じく空気調和・衛生工学会の論文賞を授与されています。

終わりに、これまでの研究は当時の研究室の長野克則先生、濱田靖弘先生、中村真人技官と一緒に行った共同研究であります。心から感謝するとともに叙勲の栄誉を分かち合いたく思います。旧衛生工学科の射場本勘市郎先生にはご指導を賜り厚くお礼を申し上げます。今は亡き3名の恩

師、平山 嵩先生、齊藤平蔵先生、柴田拓二先生にお礼を申し上げます。

北海道大学のより一層の発展を祈念します。

## 功績等

落藤 澄氏は、昭和11年5月5日に北海道に生まれ、同34年3月北海道大学工学部建築工学科を卒業、同36年3月東京大学大学院数物系研究科建築学専攻修士課程、同39年3月同博士課程を修了し、工学博士の学位を取得されました。昭和39年4月からの東洋大学工学部建築学科助教授を経て、同年10月北海道大学工学部助教授に採用されました。昭和53年4月には北海道大学工学部教授に昇任され、平成9年4月工学部の改組に伴い北海道大学大学院工学研究科教授となられたのち、同12年3月停年により退官されました。

昭和39年以降の教官在任中、学部においては、人間環境計画学、空気調整工学、衛生工学実験など、また、大学院においては環境システム工学特論、人間環境計画学特別演習などの講義、演習を担当されるとともに、学生の研究指導にあたり、多くの技術者と研究者を育成されました。

研究面では、一貫して冷暖房のためのエネルギー有効利用システムの構成法と制御方法に関する研究に従事され、北海道大学工学部着任後は、積雪寒冷地の事務所ビルを中心とした大型建築物の熱負荷特性を実測調査の面から明らかにするとともに、理論面では「間欠暖房と全日暖房の熱負荷及び所要熱量の解析」の研究に取り組み、その成果に対して、空気調和・衛生工学会論文賞が贈られました。その後、エネルギーの有効利用の手段として我が国では類例を見ない地中蓄熱方式及び帯水層蓄熱方式の先駆的研究を柱として、都市規模の冷暖房システムのエネルギー有効利用の研究に邁進されました。その一連の研究の中の「長期蓄熱による埋設管の熱伝導に関する理論解析」と「帯水層の蓄熱効果に関する長期測定とその考察」の論文に対して、空気調和・衛生工学会より表彰を受けました。同時に、工学部の改組に伴う都市環境工学専攻人間環境計画学講座設立のこの頃より「エネルギー自立型住宅（ローエネルギーハウス）の建設と評価」と「長期蓄熱システムの開発と実用化」の研究課題を通して、「自立型都市をめざした都市代謝システムの開発」という次世代を見据えた国家的プロジェクト研究の中心的役割を果たされました。

学外においては、通商産業省工場立地及び工業用水審議会専門委員をはじめ、地方自治体の様々な委員会等に参画され、地域の発展に貢献されるとともに、学術界では、空気調和・衛生工学会理事、日本環境管理学会北海道支部長などを歴任されるなど、学術の発展に大いに寄与されました。

以上のように、学生の教育、学術研究の発展、本学の運営などに対する貢献は極めて大なるものがあります。

## 略歴

生年月日	昭和11年5月5日
昭和39年4月	東洋大学工学部建築学科助教授
昭和39年10月	北海道大学工学部助教授
昭和53年4月	北海道大学工学部教授
平成9年4月	北海道大学大学院工学研究科教授
平成12年3月	北海道大学停年退職
平成12年4月	北海道大学名誉教授

(工学院・工学研究院・工学部)



おおかわ あきら  
大河原 章 氏

## 感想

この度は、関係各位のご推挙により身に余る叙勲の栄を賜り誠に光栄に存じます。

北海道大学医学部を卒業後、恩師故三浦祐晶教授をはじめ多くの先輩諸先生方のご指導を受け、更には多くの敬愛する同僚・後輩、また良き友人達にお世話になりましたことに心から感謝しております。

私は昭和36年北海道大学医学部を卒業後、神奈川県相模大野市の在日米国陸軍病院で1年間のインターンを終え、故三浦教授主宰の皮膚科学講座に、皮膚の生化学的研究に興味を持ち大学院生として入局しました。

昭和39年9月、東京オリンピック開催直前に、長年の夢であったオレゴン大学に留学し、専らヒト表皮の糖質代謝の酵素生化学的研究を通して、難病の乾癬の病態解明に取り組みました。当時日本からの留学生は少なく、優秀な他大学出身の研究者と交流を深められたことは大きな財産となっております。

3年間の留学後一旦帰国しましたが、再度マイアミ大学皮膚科の招きで2年間を大学のスタッフとして過ごすことになりました。マイアミ大学では他国の先生方と親交を深め、globalな価値観の重要性を改めて学びました。こうした経験を基に後日、日本と中国、日本と韓国、日本と豪州各2国間の合同皮膚科学会の開催に、日本皮膚科学会の理事の一人として積極的に関わることが出来ました。時代が異なるとはいえ、最近では留学志向の学生が減少傾向にあるようで残念です。

昭和51年から9年6か月間は、新設旭川医科大学皮膚科学講座を主宰させていただく機会を与えられ、まさに無からの教室創りでしたが、頼りになる教職員や旭川市の同門諸氏の温かいご支援を受け、研究・学生の講義に夢中で取り組みました。幸い有望な1期生5名を講座に迎えて基礎が固まり、その後教職員も順調に増え、現在道内のみならず日本各地で地域医療の中核的存在として活躍してくれていることを嬉しく思っております。

昭和60年10月から約14年間北海道大学医学部皮膚科学講座を主宰致しましたが、有能な教室員に恵まれ、日本皮膚科学会総会ははじめ多くの学会を札幌市で主催し、更に隣国の中国、韓国、並びに豪州とそれぞれ2国間の合同皮膚科学会を主催出来たことも貴重な思い出です。これら諸国の同志とは現在も交流を続けています。

今回の受章に際し、永年に亘り良き環境を与えてくださった旭川医科大学、北海道大学、そして改めて恩師、先輩諸氏、優れた教室員、良き友人達、更に海外諸国の多くの同志の方々に深謝申し上げます。終わりに、長い間慣れない北海道で一緒に歩んでくれた家内に感謝します。

医療が効率性、経済性を通して語られることが多く感じられる昨今、医療の本質を思索しながら、これからも微力を尽くしたいと願っております。

### 功績等

同氏は昭和10年6月17日山梨県中巨摩郡甲西町に生まれ、同36年3月北海道大学医学部を卒業し、同年4月より在日米陸軍病院において1年間の実地修練を終了後、医師免許を取得されました。昭和39年10月より同42年9月までの3年間、米国のオレゴン州立大学皮膚科に留学し、同年11月に北海道大学医学部皮膚科学講座助手、同44年1月に同医学部附属病院皮膚科講師となりました。昭和51年4月に新設となる旭川医科大学皮膚科学講座の初代教授として赴任され、同60年9月まで旭川医科大学で教育、研究、診療に従事されました。昭和60年10月北海道大学医学部皮膚科学講座教授に任命され、平成11年3月退官まで、医学教育、研究、診療に努め、附属病院並びに北海道大学の運営にも尽力され、同年4月に北海道大学名誉教授になりました。退官後は平成11年4月より同15年10月まで学校法人浅井学園の教授として医学教育に努められました。

同氏は、難治性皮膚疾患で罹患率が世界人口の2%といわれる「乾癬」に重点をおき、約600編の論文を発表し、乾癬の病態解明のための基礎的研究をはじめ、厚生省の特定疾患希少難治性皮膚疾患である汎発性膿疱性乾癬の調査研究班の班員（幹事）として、本邦における疫学調査を施行し、また本症の診断基準、治療指針、重症度分類を確立するなど、乾癬の病因・病態の解明に優れた業績を挙げ、さらに世界基準となる診断・治療指針を示されました。

医学教育については、27年以上の間、3つの大学で教授として医学部学生、大学院医学研究科学生、北海道大学医療技術短期大学部学生等の教育指導に広く携わり、また、在任中は、講座所属の多くの研究生や海外留学生の研究指導、皮膚科学の研鑽、皮膚科医としての育成に尽力されました。

学外にあっては、日本皮膚科学会副理事長、日本乾癬学会理事長等を歴任され、文部省学術審議会専門委員、北海道特定疾患対策協議会会長の要職を務められました。これらの功績により、平成7年に北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞されました。

以上のように、同氏は数多くの学会・研究会で指導的地位にあり、多くの優れた研究業績を挙げ、学術の進歩、発展に貢献されると共に、学生、後進の教育・育成及び地域医療の発展に多大な努力を重ねられ、その功績は顕著であります。

### 略歴

生年月日	昭和10年6月17日
昭和42年11月	北海道大学医学部助手
昭和44年1月	北海道大学医学部附属病院講師
昭和51年4月	旭川医科大学医学部教授
昭和60年10月	北海道大学医学部教授
平成8年4月	北海道大学評議員
平成11年3月	
平成11年3月	北海道大学停年退職
平成11年4月	学校法人浅井学園北海道女子大学短期大学部 (現：北翔大学短期大学部) 教授
平成12年4月	学校法人浅井学園北海道浅井学園大学 (現：北翔大学) 教授
平成15年9月	

(医学研究科・医学部)



こ だ ま じ ゅ う じ  
児玉 譲次 氏

### 感想

この度の私の叙勲にあたりまして、私を支えてくださいました恩師、共同研究者、同僚、後輩、学生、事務官、技官などすべての

の方々に心より厚く御礼申し上げます。

私の専攻分野はヒトの頭蓋(トウガイ)の形態発生(肉眼発生)であります。

ヒトの頭蓋は15種23個の頭蓋骨によって形成され、これはさらに5種7個の脳頭蓋と10種16個の顔面頭蓋に分類されます。脳頭蓋は後頭骨1個、蝶形骨1個、側頭骨1対2個、頭頂骨1対2個、前頭骨1個より成り、顔面頭蓋は篩骨1個、下鼻甲介1対2個、涙骨1対2個、鼻骨1対2個、鋤骨1個、上顎骨1対2個、口蓋骨1対2個、頬骨1対2個、下顎骨1個、舌骨1個より成ります。

肉眼解剖学は研究し尽くされて、もう研究テーマが存在しないとさえ言われておりましたが、例えば頭蓋骨をとりましても未研究の骨があります。

私が調査致しました頭蓋骨は後頭骨、蝶形骨、頭頂骨の三骨の一部分にすぎず、他の頭蓋骨につきましてはほとんど未研究のままです。

私は後頭骨の上部は一次性の骨核と二次性の骨核があり、ほとんど発育しない一次性のものと急速に発育する二次性のものとの融合不全により所謂インカ骨が発生することを発見しました。蝶形骨はその体部が2種4個の骨核か



ら形成されることがこれまでの文献により発表されておりましたが、5種9個の多発生の骨核から発生することを発見しました。また、体部の上部を形成する蝶形骨平面は従来の文献では体部により発生するとありますが、小翼の原基であるorbitosphenoidにより発生することを発見しました。また、頭頂骨は上下2骨核より形成され、それら2骨核の融合不全により2分頭頂骨が発生することを確認しました。

以上の私の研究調査は北海道医学雑誌に英文で発表され、これが縁で昭和50年にNIH（アメリカ国立衛生研究所）で開催された、頭蓋底発生に関するシンポジウムに日本を代表して私が招待され、蝶形骨発生に関する発表を行いました。

このように私の行った頭蓋発生に関する調査は、15種の頭蓋骨のうち僅か3種にしか行われておらず、未調査の12種の頭蓋骨につきましては、研究調査が行われますことを祈って止みません。

## 功績等

同氏は、昭和10年2月25日、札幌市に生まれ、同35年3月北海道大学医学部医学科を卒業、北海道大学医学部附属病院において1年間の実地修練を終了した後、同36年4月北海道大学大学院医学研究科へ進学し解剖学を専攻、同40年3月同課程を修了し、「ヒト蝶形骨のpresphenoidの発生学的研究」（英文）の論文により医学博士の学位を授与されました。また、昭和36年6月に第30回医師国家試験に合格されました。

昭和40年4月北海道大学医学部助手、同41年7月同講師、同43年11月同助教授を経て、同46年9月北海道大学教授に任ぜられ、医学部解剖学第二講座を担当されました。以来、平成10年3月の停年退官まで一貫して、解剖学の教育、研究並びに学生実習のための解剖体献体運動を行う北海道大学白菊会の代表としてご遺体収集業務に従事されました。平成10年4月に北海道大学名誉教授となり、今日に至っています。

同氏の研究分野は肉眼解剖学です。同氏は、主たるテーマである「ヒト胎児頭蓋の形態発生学的研究」に関連し、未開拓分野であるヒト胎児（胎生3ヵ月から胎生10ヵ月まで）を約1,000例収集され、頭蓋の分解晒骨標本並びに非分解標本晒骨標本を作製し、発生に伴う骨成長、骨核数、骨融合などについて、肉眼による骨形態発生の立場から詳細な研究調査を行い、その研究成果から複数の論文を発表されました。著書は1編で分担執筆による「解剖学事典」（朝倉出版）があり、原著論文は17編あります。

学会活動としては、日本解剖学会評議員を務め、また第98回日本解剖学会総会会頭（平成5年）を務められました。国際シンポジウムとしては、昭和50年にNIH（アメリカ国立衛生研究所）主催の「頭蓋底に関するシンポジウム」において、ヒト蝶形骨の発生について発表を行いました。

学内にあっては、隔年に北海道大学で開催されるサマーセッションで「北方民族の人類学と民族学」と題して講演

を行い、本学の運営並びに国際交流に参与されました。学外にあっては、文部省大学設置・学校法人審議会専門委員を務め、我が国の学術向上にも貢献されました。平成8年には、北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞されています。

以上のように、同氏は教育及び研究で多大の貢献をされ、その功績は誠に顕著であると認められます。

## 略歴

生年月日	昭和10年2月25日
昭和40年4月	北海道大学医学部助手
昭和41年7月	北海道大学医学部講師
昭和43年11月	北海道大学医学部助教授
昭和46年9月	北海道大学医学部教授
平成10年3月	北海道大学停年退職

(医学研究科・医学部)



わかまつ すみお  
若松 澄夫 氏

## 感想

この度、叙勲の栄を賜り身に余る光栄と存じております。昭和46年に文部省に入省し、平成14年に北海道大学の事務局長を最後に退官しましたが、この間、多くの上司、先輩、同僚、部下に恵まれ、そのご指導、ご支援の賜物と感謝いたしております。

平成11年7月に北大の事務局長に就任しましたが、就任当時の総長は、丹保憲仁先生でした。文部省当時、高等教育、学術行政を担当し、大学の教育研究についてそれなりの知識は持っているつもりでしたが大学の現場を担当するのは初めてでした。当時の北大は、いわゆる大学院重点化がほぼ完成し、21世紀を目前にして次の時代の北大の在り方を模索していた時期でした。おりしも外圧としての国立大学の法人化の議論や大学改革の動きもかまびすしく、これらも視野に入れて北大の在り方が問われていました。こうした認識を一番有していたのは丹保総長でした。丹保総長は、このため、平成12年3月、評議会の下に未来戦略検討ワーキンググループを発足させました。同ワーキンググループには、3つの部会がおかれましたが、その一つである「大学運営部会」は、総長室の設置、副学長の増員等

内容とする中間報告をまとめ、6月の評議会です承されました。この報告は、大学を取り巻く環境の変化に機動的に対応し、併せて大学の教育研究体制の改革を適切かつ効率的に検討実施するためには、総長のリーダーシップが効率的に発揮できる体制を整備すべきである、との問題意識によるものです。当時の北大は、部局の自治、権限が強く（そのこと自体は尊重すべきものですが）、総長がリーダーシップを発揮することは大変困難でした。文部省で

学改革の旗を振ってきた一人として、現場の困難さをつくづく感じました。

平成13年5月、丹保総長の任期満了に伴い、法学部出身の中村睦男先生が総長に就任しました。いつも忙しく動き回っている丹保総長からじっくり考える中村総長への交代でした。こうして北大は法人化に向けてさらなる検討を新たに設置された総長室を中心に行っていくことになりました。私も副学長や総長補佐の先生方といろいろと議論をしてきました。北大の発展のためにどれだけ役に立ったかは疑問ですが。

平成14年3月、2年9か月の事務局長生活を最後に退官することになりました。退官に当たって総長補佐の先生方が開いてくれた送別会は今も記憶に残っています。

### 功績等

若松澄夫氏は、文部省学術国際局研究助成課研究協力室長在職時、「地域共同研究センター」の設置を図るとともに、「民間等との共同研究制度」の促進に貢献されました。

文部省学術国際局学術課学術企画室長在職時には、「学術研究振興のための新たな方策について－学術の新しい展開のためのプログラム－」をはじめ、多数の建議をとりまとめ、学術研究の振興に貢献されました。

また、文部省高等教育局私学部学校法人調査課長在職時は、学校法人の健全な経営確保を目的とした「学校法人運営調査委員制度」を活用し、私立学校の振興に尽力されました。

文化庁文化財保護部記念物課長在職時は、記念物、埋蔵文化財の保存・活用に尽力し、世界文化遺産推薦に係る関係省庁等との連絡調整を行い、我が国初の世界文化遺産登録（「法隆寺地域の仏教建造物」「姫路城」）に至る実務を主導されました。

文部省高等教育局私学部私学行政課長在職時は、私学に対する税制上の優遇措置の拡充に尽力し、私立学校の発展に寄与されました。また、高等教育局企画課長在職時には、大学審議会の事務担当課長として、多岐にわたる高等教育改革の課題について積極的に調査審議を進められました。

文化庁文化財保護部長に在職時は、文化財行政を総括し、アイヌ文化振興法に基づくアイヌ文化の復興・振興に関する各種施策の企画立案を主導されました。

さらに、文部省大臣官房審議官（学術国際局担当）在職時は、高エネルギー加速器研究機構の「Bファクトリー加速器」の整備をされたほか、単一鏡として世界最大級の望遠鏡となる大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の整備に尽力されました。

北海道大学事務局長在職時は、全学の事務職員を指揮され、多様な業務を適正に執行し、大学の中核として丹保憲仁、中村睦男、両総長を側面から補佐し、大学の発展に尽力されました。

特に大学院重点化においては、学部を持つ全ての大学院研究科の重点化を実施したほか、国際広報メディア研究科

及び遺伝子病制御研究所の設置、3つの研究センターの設置に尽力されるなど、研究重視型大学として北海道大学の発展に貢献されました。

また、副学長を3人体制にするとともに、総長補佐体制を整備し、大学運営の一層の円滑化及び運営体制の強化に寄与されたほか、国立大学の独立行政法人化においては、運営体制、目標評価、人事制度、財務などの制度設計の検討に尽力し、北海道大学の法人化への礎を築かれました。

以上のように、同氏は、多年にわたり文部行政、学術行政に大いに貢献され、功績は誠に顕著であります。

### 略 歴

生年月日	昭和21年1月26日
昭和44年3月	新日本工機株式会社
昭和44年10月	株式会社第一学習社
昭和45年3月	
昭和46年1月	文部省大学学術局技術教育課
昭和48年5月	文部省管理局教育施設部助成課
昭和50年4月	文部省管理局教育施設部助成課法規係長
昭和50年9月	文部省学術国際局学術課学術振興係長
昭和53年8月	文部省初等中等教育局小学校教育課学校管理係長
昭和54年3月	文部省初等中等教育局小学校教育課課長補佐
昭和54年4月	青森県教育委員会文化課長
昭和56年4月	文部大臣官房人事課専門員
昭和56年4月	総理府人事局労働第1担当参事官補佐
昭和58年8月	文化庁文化部国語課課長補佐
昭和59年8月	文部省体育局学校給食課課長補佐
昭和60年12月	文部省体育局体育課課長補佐
昭和62年5月	文部省体育局体育課体育企画官
昭和63年7月	文部省学術国際局研究助成課研究協力室長
平成元年4月	文部省学術国際局学術課学術企画室長
平成2年7月	文部省高等教育局私学部学校法人調査課長
平成4年7月	文化庁文化財保護部記念物課長
平成6年7月	文部省高等教育局私学部私学行政課長
平成7年7月	文部省高等教育局企画課長
平成9年7月	文化庁文化財保護部長
平成10年7月	文部省大臣官房審議官
平成11年7月	北海道大学事務局長
平成14年3月	

(総務企画部総務課)



ふくしま ようこ  
福島 洋子 氏

### 感 想

この度、はからずも叙勲の栄誉を賜り身に余る光栄と感激いたしております。これもひとえに関係の皆様のご尽力の賜物と深く感謝し、お礼申し上げます。

私は昭和50年3月に北海道大学医学部附属看護学校卒業、同51年3月に同助産婦学校卒業後、同年三笠市立総合

病院，同52年東京大学医学部附属病院分院を経て，同年7月北海道大学医学部附属病院に就職し，定年退職した平成26年3月までの37年余り，北海道大学病院に勤務させていただきました。

振り返ってみますと，北海道大学医学部附属病院で最初に配属された第二外科病棟は，心疾患のため保育器に収容されている新生児から高齢者までの患者さんで人工呼吸器を装着された方が，常時2～4人いらっしゃる病棟でした。一番苦手だったのは，経鼻的気管内吸引で，半年間は患者さんにご迷惑をかけました。また，がんの手術後で人工呼吸器を装着しているターミナル期の患者さんを医師の許可を得て入浴させたり，車椅子に座ったり等の行動拡大をする中で，患者さんの笑顔と生きる力から，看護の力と信頼関係の重要性を実感する日々でした。

昭和55年11月に産科病棟に異動となり，本来目標としていた「助産婦としての技の探求」を目指したいと思いましたが，当時は産科医療の劇的変化の時代でした。看護婦長の命で，新しい産科学の学習と妊産婦・新生児管理の変更とそれに伴う業務改革，大学病院の助産婦として学識の向上に向けた学会発表に追われました。その体験は，以降の助産婦（師）としての，また看護管理者としての礎となりました。産科の看護婦長となってからは，看護要員不足を改善するためにNICU（新生児特定集中治療室）加算取得のための要件整備や，妊産婦・新生児の一貫した管理ができる周産期管理医療情報システムの構築に医師・同僚・後輩と共に取り組みました。

平成13年4月第二外科に異動，同14年4月に初代の医療安全推進室（管理部）専任リスクマネージャーとなりました。手探り状態の中，病院長・医療安全管理部長・看護部長の強力なご支援と病院職員の皆様のご協力で，少しずつではありましたが，安全管理体制が整っていきました。「職員を守れずして患者は守れない」という合言葉のもと頑張りましたが，継続の力と正規・非正規を問わず職員一人ひとりの重要性を痛感する日々でした。

平成21年に看護部に異動となりました。副看護部長として，入退院センター設置，共通病床の運用とシステム改革，病院機能評価更新等，病院としての事業に携わりました。組織と職員一人ひとりを大事する組織方針に守られ，これらの職務を果たせたように思います。

私の37年余りの助産師・看護師としての年月は，良き先輩・同僚・後輩に恵まれ，他職種の様々な皆様にご支援していただいたおかげと感謝してもし尽くせません。今後はこの榮譽に恥じることはないよう過ごしてまいりたいと思います。

最後になりましたが，北海道大学・北海道大学病院・看護部の発展をご祈念申し上げ，お礼の言葉と致します。

### 功績等

福島洋子氏は，昭和29年3月25日に北海道札幌市に生まれ，同50年3月北海道大学医学部附属看護学校卒業，同51年3月同医学部附属助産婦学校卒業後，他病院での勤務を

経て，同52年7月に北海道大学医学部附属病院に就職，同59年副看護婦長，平成5年看護婦長，同18年副看護部長を歴任され，同26年3月に北海道大学病院を定年にて退職するまで勤務されました。

同氏は当初，第二外科病棟，産科病棟で勤務され，特に安全・安心な分娩を迎えられるよう妊産婦への援助に力を発揮されました。副看護婦長昇任後は，看護実践力の高いチーム作りにも努められました。

看護婦長時代は，産科病棟，第二外科病棟で勤務され，この間，日本看護協会認定看護管理者制度セカンドレベル研修を受講する等，助産師の実践能力向上のための教育体制の基盤を作られました。また，当時としては画期的であった周産期管理医療情報システムの構築や，NICU整備にも大きく貢献されました。この間多数の看護研究を指導する一方で，自らも母性看護について数多くの学会発表や論文投稿を行い，「胸膜部結合双生児と母への看護」で「日本母性衛生学会学術奨励賞」を受賞されています。その後，初代の医療安全推進室専任リスクマネージャーに就任され，医療安全管理マニュアルを作成する等，本院における医療安全管理体制の基礎作りに尽力されました。

副看護部長昇任後は，医療安全管理部で3年，業務担当を5年間務められました。業務担当としては，入退院センター新設に向けた組織・運用体制の準備に取り組み，その稼働に多大な貢献をされました。また，全職員対象の接遇研修企画にも尽力されました。病院機能評価受審に際しては，評価対象領域毎に病院全体を横断しての体制整備を進め，病院機能の維持・向上に貢献されました。また，北海道大学大学院保健科学研究院と共同で「看護職キャリアシステムプラン開発・評価組織体制」を構築し，部署内の教育プログラムを企画運営する指導看護師院内認定制度を確立されました。この間も学会発表や論文投稿に積極的に取り組み，特に全国の大学病院の入退院センターの設置や運営に多大な影響を与えました。

同氏は社会的活動も精力的に行い，北海道看護協会においては，業務委員長や訪問看護推進委員長等を歴任されました。また，国立大学医学部附属病院医療安全管理協議会幹事等を担当し，全国の医療安全管理体制の構築に尽力されました。

以上のように同氏は，37年の永きにわたり看護管理・教育の充実に尽くされ，その功績は誠に顕著であります。

### 略歴

生年月日	昭和29年3月25日
昭和51年4月	市立三笠総合病院
昭和52年4月	東京大学医学部附属病院分院
昭和52年7月	北海道大学医学部附属病院看護部
昭和59年4月	北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
平成5年4月	北海道大学医学部附属病院看護部看護婦長
平成18年4月	北海道大学病院看護部副看護部長
平成26年3月	北海道大学定年退職

(北海道大学病院)

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	18,677件 3,134,148,234円
基金累計額（4月30日現在）	教職員の寄附率 36.6%（1,450件/3,962人）

## 4月のご寄附状況

法人等11社、個人219名の方々から21,916,712円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

渥美工業株式会社、株式会社栗井ビル管理、こみや矯正歯科、株式会社ジェイマックスシステム、空沼小屋の保存を考える会、道路工業株式会社、株式会社ドーコン、日本甜菜製糖株式会社、北大野球部OB会、北海道大学医学部保健学科看護学専攻第9期卒業生一同

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青井 良平	浅野 賢二	麻里 禮三	厚谷 襄兒	飯田 康博	井垣 健二	石井 哲夫
石川 洋	石山 紘	井上 興治	井上 修平	猪又 稔	入澤 秀次	岩城 俊昭	岩崎 泰彦
大串 松彦	岡田 光弘	尾崎 政広	小山内幸夫	織田 紀雄	小内 透	小原 大和	帰山 雅秀
加藤 正進	金川 眞行	加納 民雄	河本 充司	北島 明	北田 薫美	木下 大也	木村 克俊
久保田聡嗣	窪田 光純	小窪 崇浩	後藤 五一	今 日出人	齋藤 伸一	齋藤 映樹	斉藤 久
酒井 泰	坂田 和則	桜井 謙介	佐々木晴美	佐々木広輝	佐々木亮子	佐藤 直樹	佐藤 正芳
佐藤 義広	佐野 成信	猿渡亜由未	三升畑元基	島村 昭志	清水 智之	菅原 聡	杉田 弘也
図師 満	関口信一郎	瀬名波栄潤	仙田 昌功	高野 一男	但馬 健一	田中 岳	谷澤 房郎
多谷 司	丹野千枝美	土家 琢磨	出口 泰寛	寺澤 睦	土井 敏	徳長 政光	飛内 健雄
豊田 威信	永井 雅彦	長沢 和夫	中村 英夫	名和 豊春	西尾 伸也	西澤 雅俊	橋本 直蔵
幡本 篤	早川 哲也	春木 隆一	平井 康市	福島 英晃	福田 晴耕	古内 仁	古川 巖水
本田 幸一	本間 政幸	眞岸 徹	牧野 有洋	三浦 清一	水口 洋	宮田 昭一	村井 怜
百瀬 治	安井 敬一	山内 隆嗣	山岸 博子	山口登美男	山田 晋	山田 朋人	山田 裕之
山田 由実	横田 弘	横溝 幸治	吉田 広志	吉野 あい	渡邊 直樹	渡部 靖憲	渡部 良幸

### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

#### （法人等）

株式会社栗井ビル管理、こみや矯正歯科、空沼小屋の保存を考える会、道路工業株式会社

#### （個人）

石山 紘、井上 修平、多谷 司

## 感謝状の贈呈

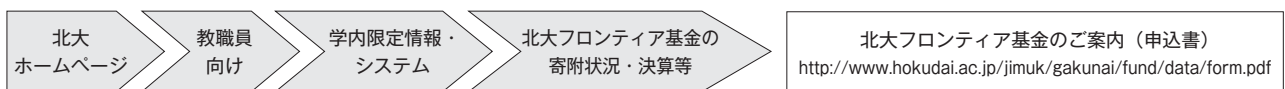


味の素株式会社 様（平成28年4月28日）

## ご寄附のお申し込み方法

## ① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



## ② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

## ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

## ④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

## 韓国科学技術院（KAIST）と大学間交流協定を締結



フォーラム出席者の集合写真

4月12日（火）韓国ソウルにおいて、韓国科学技術院（KAIST）と学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印式を行いました。調印式には、韓国科学技術院からSung Mo 'Steve' Kang総長ら3名、本学から上田一郎理事・副学長ら3名が出席しました。

KAISTは1971年設立の韓国科学院を前身として、韓国政府研究機関である韓国科学技術研究所と1981年に統合され、韓国初の研究センターの理工系特殊大学院として発足しました。1984年に学士課程が設置されてからは名実ともに韓国トップ大学に成長し、高度な科学技術人材を育成し、国家が政策的に遂行する中長期的研究開発と国家科学

技術の底力を養成するための基礎及び応用研究、多様な研究機関と産業界の研究を支援する研究センター大学を目指しています。

本学は2015年1月にKAISTにおいて「北海道大学交流デー」を開催したことを契機に理学研究院・理学院・理学部とKAIST自然科学部との間で部局間交流協定を締結し、研究者交流やワークショップの開催などを進めてきました。今回の大学間交流協定の締結により両大学間の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

なお、同日、上田理事・副学長はKAIST主催の学長フォーラム「2016 International Presidential Forum on Global Research Universities（国際

研究大学学長会議）」に出席しました。このフォーラムには世界各国65大学から120人以上の代表者が集結し、

“Social Responsibilities of Higher Education and Strategic Global Partnership.（高等教育機関の社会的責任と海外機関との戦略的パートナーシップ）”というテーマで、各大学の事例の発表やディスカッションを行いました。上田理事・副学長は本学の代表として、“Contributing to Resolution of Global Issues（世界の課題解決に向けて）”という題目で本学の国際交流に関する戦略や取り組み内容について発表しました。

（国際本部国際連携課）



調印後の記念写真



上田理事・副学長による発表の様子

## マレーシア・サバ大学と大学間交流協定を締結

4月12日（火）、マレーシア・サバ大学と学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印を行いました。調印式には、サバ大学から、Datuk Mohd Harun Abdullah学長ら5名、本学から寺尾宏明副学長ら3名が出席しました。

マレーシア・サバ大学は、1994年に

設立された大学です。工学部、人文学部、自然科学部、国際金融学部、経済学部、持続可能農学部、医学部、情報学部、食料栄養学部の9学部を有し、学生約18,000人と、教職員約1,000人が在籍しています。

本学では、地球環境科学研究院・環境科学院をはじめとして、農学研究

院・農学院でも、それぞれ同大学との交流を進めてきました。

本協定の締結により、両大学の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

（国際本部国際連携課）



調印後の記念写真

## ケンブリッジ大学教授トム・ブランデル卿による特別講演会を開催

5月2日（月）、ケンブリッジ大学教授トム・ブランデル卿を講師にお迎えし、「Genomics, structural biology and drug discovery : developing research eco-systems (ゲノム科学と構造生物学と創薬：研究のエコシステム実現に向けて)」というタイトルで講演いただきました。

講演では、ブランデル教授の研究活動やケンブリッジ大学の産学連携への取り組み内容について、研究者の視点から見た意見を交えて発表いただきました。講演会には、本学の学生や教職員等約200名が出席し、講演後の質疑応答では、本学研究者とブランデル教授との活発な意見交換がありました。

講演会終了後に、ブランデル教授は理学研究院及び薬学研究院を訪問し、本学とケンブリッジ大学との今後の交流に関する懇談や研究室見学を行いました。

（国際本部国際連携課）



会場の様子



講演中のブランデル教授



質疑応答の様子

# 「北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP)」 「日本語・日本文化研修コース (日研コース)」及び「日本語研修コース」入学式を挙

本年4月入学の「北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP)」 「日本語・日本文化研修コース (日研コース)」及び「日本語研修コース」の入学式を、4月11日 (月) に学術交流会館において行いました。

HUSTEPは、本学の協定校に在籍する留学生に対して原則として英語による授業を実施するプログラム、日研コースは、母国で日本語・日本文化に関する教育を行う学部 に在籍している留学生に対して日本語、日本文化、日本事情に関する教育を行う研修コース、そして日本語研修コースは、大学院進学前の大使館推薦の国費留学生に対して開設されている6か月間の日本語予備教育を行う研修コースです。

今回入学したのはHUSTEPに30名、日研コースに20名、日本語研修コースに12名の62名です。

入学式では、最初に来賓の方々や教員の紹介が行われ、その後、留学生全員の名前が読み上げられました。学生は、一人ひとり起立し、来賓の方々や教員、学生に向かって一礼しました。笑顔で挨拶する学生が多く、緊張の中にも、お互いに親しみを感じる機会になったようです。その後、寺尾宏明グローバル教育推進センター長からの祝辞が続きました。

引き続き、同会場にて外国人留学生のためのオリエンテーションが行われました。大学での事務手続き等の説明の他、札幌北警察署や札幌国際プラザ

による交通安全や札幌での生活についての案内、在学生による大学生活に関する簡単な発表などがあり、学生たちは熱心に聞き入っていました。

(国際本部国際教務課)



寺尾グローバル教育推進センター長による祝辞



北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP) 留学生



日本語・日本語文化研修コース (日研コース) 留学生



日本語研修コース留学生



## 北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生に採用され4月に入学した留学生に対し、同特待プログラム留学生採用証書授与式を、4月26日（火）に国際本部大会議室で行いました。

授与式には、上田一郎国際本部長をはじめ関係者が出席し、上田国際本部長から留学生一人ひとりに採用証書が手渡されました。

北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始された制度です。博士後期課程（医学研究科、歯学研究科、獣医学研究科及び生命科学院臨床薬学専攻については博士課程）、博士課程教育リーディングプログラムに選抜された修士課程と博士後期課程（獣医学研究科については博士課程）に入学する

私費外国人留学生を対象にしており、アドミッションポリシー、研究分野、研究の課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

現在は、今回の4月入学者の8名を含め、26名の特待プログラム留学生が在籍しています。

（国際本部国際教務課）



上田国際本部長から採用証書を授与



集合写真

# 「韓国北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式及び韓国北海道大学ヨルリョンチョ会発足式」を開催



集合写真

4月9日(土)、韓国ソウルにて「韓国北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式及び韓国北海道大学ヨルリョンチョ会発足式」が開催されました。ヨルリョンチョとは韓国語でエンレイソウを指す言葉です。北海道大学のシンボルマークとなっているエンレイソウの名前を掲げて発足したこの会は、4月1日に発足したばかりの北海道大学アンバサダー・パートナー制度初の委嘱者である3名のアンバサダー及び30名のパートナーにより組織され

ています。なお、委嘱者の決定や式典は、本学ソウルオフィスの協力のもと行われました。

北海道大学アンバサダー及びパートナーとは、本学同窓生及び本学の教育・研究活動に賛同してくださる支援者や協力者の中から、特に海外での北海道大学コミュニティーの発展・活性化や、海外における広報活動を支援してくださる方々に授与される称号です。委嘱式では、被委嘱者代表の方から、世界における北海道大学コミュ

ニティーの活性化に向け、その基盤となる北海道大学アンバサダー及びパートナーとしての抱負が熱く語られました。また、在大韓民国日本国大使館の別所浩郎特命全権大使からも祝辞をいただき、今後の韓国における本学支援コミュニティーの実りある活動に期待が寄せられました。

式の後半では、長年にわたりエンレイソウの研究をしている本学の大原雅教授による「北大の花、オオバナノエンレイソウの生活史」と題した講演が行われました。一度花が咲くと長年にわたり同じ場所で花をつけ続けるエンレイソウとヨルリョンチョ会の今後の末永い存続を関連付けた講演に、北海道大学アンバサダー及びパートナーとなった方々も聞き入っていました。韓国の伝統芸能公演の後に札幌農学校校歌「永遠の幸」斉唱で幕を閉じた発足式及び委嘱式は、終始大変温かい雰囲気の中で執り行われました。

(国際本部国際企画課)



委嘱状を受け取ったイ・ジョンファン  
北海道大学アンバサダー(右)



別所特命全権大使の祝辞



「永遠の幸」斉唱の様子



大原教授による講演の様子

## 平成28年度「全学教育科目に係るTA研修会」を開催

高等教育推進機構では、平成10年度から、毎年全学教育を担当する新任TAを対象に、その心構えや役割の理解を深めることを目的として、研修会を開催しています。今年度は、高等教育研修センターが中心となり、4月5日（火）に高等教育推進機構大講堂及び講義室等を会場として開催し、約300名が参加しました。

午前の部は、高等教育推進機構長の新田孝彦理事・副学長の挨拶に続いて、総合教育部長の鈴木久男教授による講演「北海道大学の全学教育について」、文学研究科の瀬名波栄潤教授による講演「TAのVisionとMission」等

が行われました。また、教員と大学院生をパネラーに招いたパネル討論「TAの業務と役割」では、先輩TAからTAの体験談を話してもらい、いずれも参加者は熱心に聞き入っていました。

午後の部はグループ学習として13の

分科会に分かれて「講義におけるTAの役割」及び「TAに期待される業務内容等」を中心に討論・発表等が行われ、参加者はTAの役割等についての理解を深めていました。

(高等教育推進機構)



文学研究科の瀬名波教授による講演



午前の部の様子

## 産業競争力懇談会（COCN）北海道大学サイトビジットを開催

産学・地域協働推進機構では、4月14日（木）、FMI国際拠点において、産業競争力懇談会（COCN）北海道大学サイトビジットを開催しました。

産業競争力懇談会（COCN：Council on Competitiveness-Nippon）とは、平成18年6月に、日本の産業競争力の強化に深い関心を持つ産業界の有志により発足したもので、国の持続的発展の基盤となる産業競争力を高めるために「科学技術政策」「イノベーション政策」を提言として取りまとめ、政府と民間の役割分担を明らかにした上で、政府に対し推進と支援を要請する活動を行っています。

本サイトビジットは、文部科学省の提案により、イノベーション実現に向けた本格的な産学連携等の推進を図るため、「8大学（旧七帝国大学+東京工業大学）と産業競争力懇談会（COCN）との対話」の一環として開催するものです。

川端和重産学・地域協働推進機構長の挨拶に始まり、大学紹介・関連施設紹介では、川端機構長より「本学産学連携の全体像」、工学研究院の梅垣菊男教授より「陽子線治療センター」、北

極域研究センターの齋藤誠一センター長より「北極域研究センター」、産学・地域協働推進機構の吉野正則客員教授より「COI『食と健康の達人』」、産学・地域協働推進機構の高山大特任教授より「未来創業・医療イノベーション拠点形成」の紹介が行われました。

続いて、FMI国際拠点及びシオノギ創業イノベーションセンターを視察した後、意見交換会が行われ、大学と企

業が抱える様々な課題について活発な議論が交わされました。

その後行われた情報交換会には31名が参加し、相互に有益な情報交換がなされ、盛況のうちに閉会となりました。

今後も本懇談会を深めていくことで、産学官連携の発展に寄与することが大きく期待されています。

(産学・地域協働推進機構)



川端機構長の挨拶



文部科学省産学連携・地域支援課坂本修一課長の発言



討議の様子



情報交換会の様子

## ■ 部局ニュース

# 経済学研究科がスウェーデン・イエーテボリ大学とダブル・ディグリー・プログラム覚書を締結

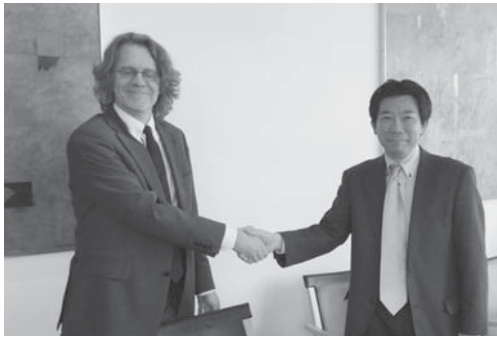
経済学研究科は3月21日（月・祝）、部局間交流協定校であるスウェーデンのイエーテボリ大学とダブル・ディグリー・プログラムに関する覚書を締結しました。これにより、両大学大学院の学生が双方から教育を受け、それぞれの修了要件を満たすことで、両大学の学位を取得することが可能となります。

調印式では、吉見 宏研究科長とOlof Johansson Stenman副学長により覚書の署名が行われ、続いて本プログラムの関係者が一堂に会してカリキュラムや単位互換、派遣スケジュール等について意見を交わし、最終調整を行いました。

イエーテボリ大学とはこれまで教職員交流や学部レベルの学生交流を活発

に行ってきましたが、平成27年度から開講している経済・経営分野のHokkaidoサマー・インスティテュートに続き、今回のダブル・ディグリー・プログラムの締結により、今後は大学院レベルでの学生交流を含めた更なる学術交流が期待されています。

（経済学研究科・経済学部）



Stenman副学長（左）と吉見研究科長（右）



関係者による意見交換会

## 経済学部でメンタルヘルス講演会を開催

経済学部では、4月7日（木）に人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、メンタルヘルス講演会を開催しました。本講演会は、新入生オリエンテーションの一環として、経済学部1年生と総合入試から経済学部に進級した2年生を対象としたもので、

保健センターの齋藤暢一朗講師から、ストレスとその対処法等について講演がありました。

当日は200名近い学生及び教職員が参加し、熱心に講演に聴き入っていました。また、参加者に対して講演終了後に実施したアンケートでは、紹介の

あった「不眠の対処法」や「先送り行動への対処法」について、「大変参考になった」「ぜひ実践したい」等の感想が多く寄せられました。

（経済学研究科・経済学部）



講演する齋藤講師



熱心に講演を聴く学生

## 第6回日本学術振興会育志賞－優秀な大学院博士課程学生の 顕彰・支援－を環境科学院学生が受賞

第6回（平成27年度）日本学術振興会育志賞の授賞式が3月2日（水）東京・上野の日本学士院にて挙行されました。全国から150名の推薦があった中から18名が選考され、本学からは環境科学院生物圏科学専攻博士後期課程3年の渡邊美穂さんが受賞しました。

日本学術振興会育志賞は、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することを目的として、平成22年度に創設され、本学では第1回から受賞者を輩出しています。

4月19日（火）には、受賞者と久保

川厚環境科学院長、指導教員の福井学教授が山口佳三総長に受賞の報告をしました。

（環境科学院・地球環境科学研究院）



受賞報告後、総長室で記念撮影（左から久保川環境科学院長、山口総長、渡邊さん、福井教授）

### 受賞者の研究課題

領域	氏名	博士課程の研究課題
生物系	渡邊 美穂	水圏環境から分離した新規細菌の系統分類と機能解析

## 薬学部で新入生歓迎会を開催

薬学部では、4月15日（金）、薬学部多目的講義室において、後期入試で薬学部へ入学した1年生25名及び薬学部へ移行してきた2年生83名の歓迎会を開催しました。

歓迎会には、薬学部・薬学研究院全体で約200名の参加があり、南 雅文

薬学部長の挨拶の後、学年や研究室を越えて互いに交流を深め、ビンゴ大会など、盛会のうちに終了しました。

（薬学研究院・薬学部）



南薬学部長の挨拶



ビンゴ大会の司会・進行で活躍した2年生



学生・教員との交流



## 薬学部で平成28年度薬学実務実習開始セレモニーを挙行

薬学部では、4月26日（火）、平成28年度薬学実務実習開始セレモニー「臨床現場へあがるための心得」を挙行了しました。

この式は、薬学科5年次生が実務実習（病院実習・薬局実習）に臨むにあたり毎年実施しているもので、学生は、実習中のユニフォームとなる真新しい上下の白衣に身を包み、引き締まった面持ちで参加していました。

式には、南 雅文薬学部長、市川

聡教務委員長、実務実習担当教員らが出席し、実務実習の趣旨や学生に期待すること、昨年度実施された実務実習をふまえての注意点などとともに、激励の言葉が伝えられました。

受け入れ施設からは、北海道大学病院薬剤部の井関 健薬剤部長、株式会社アインファーマシーズの富樫聖子氏、株式会社ツルハの古崎香織氏、株式会社コムファの井野千枝子氏が出席し、臨床の現場・患者さんに直接接す

る場で実習に臨む際の心構えなどが伝えられ、学生たちの神妙に聞き入る様子が見られました。

また、南薬学部長から学生一人ひとりへ実習中着用するネームプレートが手渡され、病院・薬局合わせて5か月に及ぶ実習への壮行となりました。

（薬学研究院・薬学部）



熱心に聞き入る学生たち



激励の言葉をかける井関薬剤部長



ネームプレートを手渡す南薬学部長

# 理学研究院AL推進室・ALP企画シンポジウム 「自然科学のためのアクティブラーニング」を開催

理学研究院アクティブラーニング(AL)推進室と物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(ALP)では、自然科学を教える教員のためのアクティブラーニング事例を学ぶシンポジウムを3月11日(金)に理学部3号館309教室で開催しました。当日は、教員35名、学生10名、学外者6名の参加がありました。

グループワークや課題解決型学修など学生の能動的な学修を取り入れたアクティブラーニングは、大学教育においても推奨され、その導入に向けて多くの取り組みがなされています。自然科学の分野では、従来からの実験・実習や演習、セミナー等に加え、講義型の通常授業においてもアクティブラーニングが導入されるようになってきました。しかし、「多くの知識も伝えなくてはいけない通常授業にアクティブラーニングを取り入れて効果はあるのか」など疑問の声もあります。シンポ

ジウムでは、自然科学の分野でアクティブラーニングを実践している教員をお招きし、具体的な実践例と実践を通して見えてきた「学習効果や課題」について紹介していただきました。

シンポジウムは、鈴木徳行理学院長による挨拶で始まり、続いて4名の講師の方々による講演が行われました。先端生命科学研究院の古澤和也助教と理学研究院リーディングプログラム推進室の黒田紘敏特任准教授からは、本学の授業で試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいるアクティブラーニングの事例紹介と、その学習効果や今後の課題について話がありました。東京大学大学総合教育研究センターの中澤明子氏からは、「アクティブラーニングで自然科学を楽しむ」と題する授業の企画・実践を通して見えてきたアクティブラーニングの教育効果や課題についてお話しいただきました。熊本県立苓明高等学校で生物を教える溝上広樹氏は、実際に授業で行っているワー

クを入れながら講演をしてくださいました。写真に写っているものを見せて考えさせる看図アプローチ等、授業で使える興味深いワークを参加者全員で体感することができ、アクティブラーニングで高校生の授業に取り組む姿勢が大きく変わることを実感しました。

シンポジウムの最後には、「アクティブラーニングで自然科学教育は変わるか」というテーマでパネルディスカッションを行いました。本学新渡戸スクールでアクティブラーニング授業を担当する難波美帆特任准教授がコーディネーターとなり、講師の4名がパネリストとして登壇しました。講演内容を中心に参加者から寄せられた質問への回答を交えながら忌憚のない意見を交わすことができ、盛会の内に終了しました。

◆<http://www.sci.hokudai.ac.jp/active-learning/>

(理学院・理学研究院・理学部)



鈴木理学院長の冒頭挨拶



講演の様子



参加者の様子



パネルディスカッションの様子

## 環境健康科学研究教育センターが 第3回「社会と健康」ディプロマ授与式を開催



授与式後の記念撮影

3月22日（火）、環境健康科学研究教育センターにおいて、第3回「社会と健康」ディプロマ授与式を開催しました。今回は5名（医学研究科：坂元あい、文学研究科：横山忠範、佐藤浩輔、教育学院：今村理子、木下美緒）のプログラム修了生に対して、齋藤健環境健康科学研究教育センター長からディプロマが授与されました。

「社会と健康」ディプロマプログラムは、北海道大学大学院のすべての専攻・学院・研究科に在籍する大学院生に開かれたプログラムです。本プログラムでは、北海道大学大学院共通授業科目「社会と健康」から6領域20単位以上（うち、必修科目11単位以上）を体系的に学ぶカリキュラムを編成して

います。加えて、これまでに各学院・研究科が提供する科目、あるいは「社会と健康」として提供されている科目以外の大学院共通授業から、合計51科目が、ディプロマプログラムへの振替科目として認められています。「社会と健康」領域において、環境要因と健康・予防に関する知識、研究技法を学ぶ意欲がある大学院生に対して、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、研究課題に必要なPublic Health（公衆衛生）に関わる知識を得るため科目選択の指針を与えています。本プログラムの指針に沿って科目選択し、単位が認められた学生に対して、「社会と健康」に関する知識と実践教育を受けたことを証明するディプロマを授与します。



齋藤センター長よりディプロマを授与

「社会と健康」ディプロマは、平成27年3月に第1回目の授与を行い、同年9月の第2回に引き続き、今回は第3回目の授与式となり、累計8名がプログラムを修了しました。医学研究科や保健科学院所属の大学院生に続き、今回は文学研究科及び教育学院所属の4名がプログラムに参加し、研究分野の垣根を越えた文理融合的型の人材育成となっています。現在は新たに工学院、農学院等の大学院生や留学生がプログラムに参加しており、今後ますます多様な人材の輩出が期待されます。

（環境健康科学研究教育センター）

## 教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターで 専門研修会「発達臨床セミナー」を開催

教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターでは、研究により得られた知見を現場に還元することを目的に、毎年、子どもの特別支援教育や心理臨床に関わる現場の実践者向けに専門研修を行っています。今年度は、「WISC-IVを通じた心理アセスメントの基礎を学ぶ」をテーマに、「S.E.N.S（特別支援教育士）の会北海道支部会」との共催で、特別支援教育に関わる専

門の教員や支援者、また心理アセスメントを担う臨床心理士を対象に、4月23日（土）・24日（日）に研修会を行いました。講師として、岡田 智准教授（子ども発達臨床研究センター）、桂野史良氏（潮見台小学校）、山下公司氏（南月寒小学校）、橋本 悟氏（北海道済生会西小樽病院）、田邊李江さん（教育学院博士課程1年）の5名が担当しました。

発達臨床における重要なアセスメントの一つに、認知機能や知的機能のアセスメントがあります。WISC-IVなどのウェクスラー知能検査は、国内だけでなく、国際的に最も使用される検査の一つであり、教育、医療、福祉などの領域で頻繁に用いられています。最近の検査の改訂では、コンプライアンスの重要性が強調され、検査を実施、活用する側には様々なルールが課せら



れるようになりました。また、知能研究や精神測定研究の進展とともに、近年ではCHC理論などの知能理論との整合性も検討されるようになり、時代と共にその専門性が高まっています。検査を実施したり、教育や療育に活用したりする支援者は、検査に関する最新の情報やルールを意識し、学ぶ必要があります。本セミナーは、研究上の知見をもとに、検査を実施する実践家、心理臨床家、医療従事者が、実施から解釈までの基礎的で実践的な内容を扱いました。

今回、臨床心理士、特別支援教育士など43名の現場実践者が参加し、講

義、演習、ディスカッションを通して、WISC-IVの実施面、解釈・活用面のスキルを高めることができました。また、それぞれの実践の情報交換なども盛んに行われ、より良い地域ネッ

トワーク構築の機会も得られたと感じます。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)



セミナーの様子

## 北海道大学病院DMATを熊本県へ派遣

北海道大学病院では、厚生労働省からの平成28年熊本地震の被災地へのDMAT(災害派遣医療チーム: Disaster Medical Assistance Team)派遣要請を受け、4月16日(土)から20日(水)にかけてDMATを出動し、熊本県阿蘇市・菊池市を中心に被災者支援にあたりました。

本院のDMATは、澤村 淳准教授(救急科)を隊長として、村上壮一教育助教(消化器外科II)、早坂光司臨床検査技師(検査・輸血部)、岩本満美看護師長、森山弥香看護師(以上看護部)、石川幸司看護師(北海道科学大学)の計6名から編成されました。

16日(土)に、航空自衛隊千歳基地から空自機にて被災地入りした後、17日(日)は川口病院(菊池市)を拠点に、合志市内の10ヵ所で避難所アセスメント(評価)を行い、各避難所にお

ける医療ニーズ等を調査しました。18日(月)から19日(火)未明にかけては、阿蘇医療センター(阿蘇市)にて外来(夜間外来含む)支援にあたり、大腿骨骨折患者を含む40名ほどの被災者の診療を行いました。19日(火)午前に阿蘇市内の介護老人保健施設アセスメントを行った後、20日(水)に本院へ帰還しました。

帰還後には、寶金清博病院長への報告及び災害対策作業部会におけるDMAT出動報告が行われ、貴重な情報共有の場となりました。DMAT隊員からは「普通に暮らせることがどんなに幸せなことか痛感した数日間だった」との感想が出される等、被害の甚大さがうかがわれました。また、被災者の健康維持のために現地で求められることのみならず、今回の出動を通して得られた課題についても、活発な意

見交換が行われるとともに、今後も災害対策作業部会を継続的に開催し、本院のDMAT出動体制についての一層の整備を図り、有事に備えることが確認されました。

北海道大学病院では、引き続き、支援物資輸送等の後方支援、医療救護班派遣といった被災地医療への継続支援等、本院ができる最大限の支援に取り組んでいきます。

(北海道大学病院)



阿蘇医療センターでのミーティング



任務を終えて後続隊へ引継ぎを行う



北海道大学病院に帰還したDMAT



澤村准教授からのDMAT出動報告

## ■お知らせ

# 北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設

文部科学省共済組合北海道大学支部では福祉共同事業の一環として、毎年道内各地の宿泊所・保養所と利用契約し、宿泊費の一部負担を実施していますが、平成28年度においても次のとおり実施しています。

なお、予算の関係上、割当枚数に達した場合は、契約期間中でも利用券発行を停止しますので、ご了承願います。

1. 契約宿泊施設 宿泊施設一覧表のとおり
2. 契約期間 平成28年6月1日（水）～平成29年2月28日（火）
3. 共済組合負担額 利用者1人1泊につき1,500円補助
4. 利用方法 利用券の発行を受ける場合には、利用券発行申請書を所属部局の担当係へ提出してください。  
発行された利用券はチェックインの際に施設受付で提示し、利用券を使用して宿泊する旨を伝えてください。なお、旅行代理店やインターネットにおける予約をご利用の場合は、宿泊利用券の使用が認められないことがあります。また、事前にクレジットカード等を利用して宿泊料を支払ってしまうと、利用券が使用できなくなりますのでご注意願います。
5. 利用資格者 組合員及びその被扶養者（小学生以上）とします。ただし、出張の際の利用はできませんので、ご注意願います。また、一度につき、3泊以上の利用はご遠慮願います。

### 平成28年度 宿泊施設一覧

施設名	所在地	電話
KKRホテル札幌	〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目	011-231-6711
札幌ガーデンパレス	〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目	011-261-5311
シャトレゼガトーキングダム サッポロ	〒002-8043 札幌市北区東茨戸132	011-773-2211
定山溪ビューホテル	〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東2丁目	011-598-3223
定山溪鶴雅リゾートスパ 森の譚	〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東3丁目192	011-598-2671
KKRはこだて	〒042-0932 函館市湯川町2丁目8-14	0138-57-8484
啄木亭	〒042-0932 函館市湯川町1丁目18-15	0138-59-5355
HAKODATE 海峡の風	〒042-0932 函館市湯川町1丁目18-15	0138-59-1126
望楼NOGUCHI 函館	〒042-0932 函館市湯川町1丁目17-22	0138-59-3556
グリーンピア大沼	〒049-2192 茅部郡森町赤井川229	01374-5-2277
八雲温泉 おほこ荘	〒049-3128 二世郡八雲町鉛川622	0137-63-3123
洞爺観光ホテル	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉33	0142-75-2111
洞爺サンパレス	〒049-5731 有珠郡壮瞥町字洞爺湖温泉7-1	0142-75-1111
湖畔亭	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉7-8	0142-75-2211
乃の風リゾート	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉29-1	0142-75-2600
緑の風リゾートきたゆざわ（旧名水亭）	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-2	0142-68-8126
第二名水亭	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-7	0142-68-6677
ホロホロ山荘	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町34	0142-68-6321
登別ランドホテル	〒059-0592 登別市登別温泉町154	0143-84-2425
登別温泉 御やど清水屋	〒059-0551 登別市登別温泉町173	0143-84-2145
石水亭	〒059-0596 登別市登別温泉町203-1	0143-84-2255
望楼NOGUCHI 登別	〒059-0551 登別市登別温泉町200-1	0143-84-3939
ニセコランドホテル	〒048-1511 虻田郡ニセコ町字ニセコ412	0136-58-2121
ルスツリゾートホテル	〒048-1711 虻田郡留寿都村字泉川13	0136-46-3331
かんぼの宿 小樽	〒047-0154 小樽市朝里川温泉2丁目670	0134-54-8511
休暇村 支笏湖	〒066-0281 千歳市支笏湖温泉	0123-25-2201
しこつ湖鶴雅リゾートスパ 水の譚	〒066-0281 千歳市支笏湖温泉	0123-25-2211
星野リゾート トマム	〒079-2204 勇払郡占冠村字中トマム	0167-58-1122

施設名	所在地	電話
十勝サホロリゾート	〒081-0039 上川郡新得町狩勝高原	0156-64-7111
国民宿舎あしべつ	〒075-0035 芦別市旭町油谷1	0124-23-1155
芦別温泉スターライトホテル	〒075-0035 芦別市旭町油谷1	0124-23-1155
大雪山白金観光ホテル	〒071-0235 上川郡美瑛町白金温泉	0166-94-3111
層雲閣グランドホテル	〒078-1792 上川郡上川町字層雲峡温泉	01658-5-3111
朝陽亭	〒078-1795 上川郡上川町字層雲峡温泉	01658-5-3241
朝陽リゾートホテル	〒078-1701 上川郡上川町字層雲峡温泉	01658-5-3911
ホテル日航ノースランド帯広	〒080-0012 帯広市西2条南13丁目1	0155-24-1234
ホリデーイン ホテル十勝川	〒080-0263 河東郡音更町十勝川温泉南16丁目2	0155-46-2555
ニュー阿寒ホテル	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8-8	0154-67-2121
あかん湖鶴雅ウイングス	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6-10	0154-67-4000
あかん遊久の里 鶴雅	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6-10	0154-67-4000
あかん鶴雅別荘 鄙の座	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8-1	0154-67-5500
阿寒の森鶴雅リゾート 花ゆう香	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉1丁目6-1	0154-67-2500
KKRかわゆ	〒088-3465 川上郡弟子屈町川湯温泉1-2-15	015-483-2643
知床第一ホテル	〒099-4351 斜里郡斜里町ウトロ香川306	0152-24-2334
サロマ湖鶴雅リゾート	〒093-0216 北見市常呂町栄浦306-1	0152-54-2000
塩別つるつる温泉	〒091-0163 北見市留辺蘂町滝の湯201	0157-45-2225
北天の丘 あばしり湖鶴雅リゾート	〒099-2421 網走市呼人159	0152-48-3211

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

## ■レクリエーション

### 平成27年度 第28回札幌社会人フットサルリーグに出場

11月3日(火・祝)～3月13日(日)の日程で平成27年度 第28回札幌社会人フットサルリーグに出場しました。

1部から4部まで、全4部39チームで構成されるリーグ戦で、教職員サッカークラブは2部に所属し、5勝3敗1分の5位で全日程を終えました。対戦成績は以下のとおりです。

また、冬場のフットサルだけでなく、4～10月にかけては屋外でサッカーの活動もしており、札幌社会人サッカーリーグにも参加しています。

サッカーやフットサルの活動の詳細が知りたい方は、ホームページをご覧ください。また、興味のある方は、お近くの部員かホームページの問い合わせ先までご連絡ください。

◆<http://hokudaikyousyokuinsc.web.fc2.com/>

(教職員サッカークラブ)

11月3日	教職員サッカークラブ	4 - 3	マジョーラ伊勢
11月3日	教職員サッカークラブ	3 - 1	ビアンカFC
11月23日	教職員サッカークラブ	2 - 0	ちば
11月23日	教職員サッカークラブ	6 - 0	CHAMUCATS
1月10日	教職員サッカークラブ	2 - 2	アンフィニVANKEI
1月10日	教職員サッカークラブ	2 - 3	SaliveS
2月7日	教職員サッカークラブ	3 - 2	アングル
2月7日	教職員サッカークラブ	3 - 6	Network+
3月13日	教職員サッカークラブ	2 - 3	札幌山の手

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成28年4月7日）

議案・平成29年度概算要求（機能強化促進分）事前説明事業について

協議事項・工学院の改組（九州大学との共同教育課程）について

- ・「入学定員の適正化」及び「入学定員減少に伴う教員人件費ポイントの考え方」についてのガイドラインについて

報告事項・副理事及び総長補佐の任命について

- ・平成27年度実施大学機関別認証評価評価結果について
  - ・平成28年度学部入学者数について
  - ・東日本大震災で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について
  - ・第3期中期計画の認可について
  - ・ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
- 

### 教育研究評議会（平成28年4月25日）

議題・総長選考会議委員の選出について

・工学院の改組（九州大学との共同教育課程）について

- ・「入学定員の適正化」及び「入学定員減少に伴う教員人件費ポイントの考え方」についてのガイドラインについて

報告事項・副理事及び総長補佐の任命について

- ・経営協議会の学内委員の指名について
  - ・平成27年度実施大学機関別認証評価評価結果について
  - ・大学間交流協定の新規締結について
  - ・国立大学法人北海道大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応要領について
  - ・第3期中期計画の認可について
  - ・ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
  - ・学生の懲戒について
- 

### 役員会（平成28年4月27日）

議案・工学院の改組（九州大学との共同教育課程）について

- ・「入学定員の適正化」及び「入学定員減少に伴う教員人件費ポイントの考え方」についてのガイドラインについて

報告事項・平成27年度インターネット出願の実施状況について

- ・会計検査院による会計実地検査の結果について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

## ■ 学内規程

---

### 国立大学法人北海道大学総長の任期に関する規程の一部を改正する規程

（平成28年4月20日海大達第112号）

総長の任期を変更することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## ■ 研修

### 平成28年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

開催期間：平成28年4月13日～15日

開催場所：学術交流会館第一会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の職員としての心構えを自覚させるとともに、初任職員として必要な基礎的知識を付与することを目的とする。



「特別講話」（徳久治彦理事・事務局長）



受講風景



「演習・グループワーク」  
（株式会社アムリプラザ）

（総務企画部人事課）

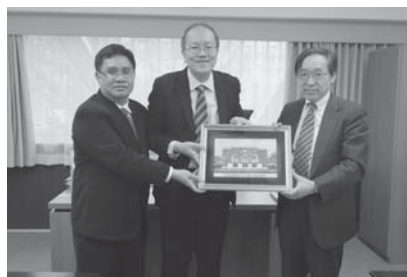
## ■ 表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
28.4.12	サバ大学（マレーシア）Datuk Mohd Harun Abdullah 学長	両大学の交流に関する懇談・ 大学間交流協定の調印
28.4.14	ヤンゴン大学（ミャンマー）Pho Kaung 学長	両大学の交流に関する懇談
28.4.28	インドネシア泥炭地回復庁（インドネシア）Nazir Foead 長官	今後の交流に関する懇談



サバ大学（マレーシア）  
Datuk Mohd Harun Abdullah 学長（中央右）



ヤンゴン大学（ミャンマー）  
Pho Kaung 学長（中央）



インドネシア泥炭地回復庁（インドネシア）  
Nazir Foead 長官（右側）

（国際本部国際連携課）

# ■人事

平成28年4月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 国際本部助教	周 波	採用

平成28年4月18日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】		
北海道大学病院看護部看護師	浅 沼 寛 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	荒 木 望 実	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	池 野 花 恵	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	石 川 智 之	北海道大学病院看護部准看護師
北海道大学病院看護部看護師	井 下 海 風	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	伊 東 篤 史	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	伊 藤 若 奈	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	岩 谷 美 和 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	浦 川 梨 里 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	大 黒 真 歩	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	大 須 賀 貴 帆	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	大 角 彩 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	太 田 さ や か	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	岡 梨 紗 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	小 川 佐 緒 梨	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	尾 立 陸	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	小 野 真 如 月	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	海 部 摩 衣	北海道大学病院看護部准看護師
北海道大学病院看護部看護師	賀 集 仁 美	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	川 合 千 秋	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	河 田 瀬 那	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	菅 野 理 紗	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	菊 地 菜 都 美	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	北 本 爽	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	熊 谷 侑 美	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	郡 司 奈 弥	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	小 金 愛 璃 紗	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	小 杉 遥 香	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	佐々木 惇 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	佐々木 慎 太 朗	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	佐々木 萌	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	佐 藤 香 奈 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	澤 田 瑞 希	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	清 水 め い	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	白 野 秋 季	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	進 藤 彩	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	須 貝 郁 美	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	鈴 木 詠 巳	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	大 門 里 実	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	高 根 茉 那	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	高 橋 美 香	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	高 橋 美 冴	北海道大学病院看護部看護助手

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護師	高 橋 侑 里	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	武 田 愛	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	竹 野 里 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	武 山 華	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	玉 川 愛	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	千 嶋 海 里	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	辻 明 里	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	中 川 る い	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	中 西 彩	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	中 野 志 穂	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	中 鉢 萌 花	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	成 澤 咲 花	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	西 萌 里	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	西 野 かさね	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	野 崎 紫 保	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	橋 本 あさひ	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	橋 本 杏 姫	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	林 萌 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	深 川 恵 衣	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	福 田 真 生	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	藤 原 麻里恵	北海道大学病院看護部准看護師
北海道大学病院看護部看護師	古 口 夏 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	古 谷 優 紀	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	堀 田 彩 花	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	本 間 加那子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	本 間 千 尋	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	牧 田 真 実	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	光 永 理 沙	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	宮 越 文 菜	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	森 田 有 華	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	安 岡 茉 耶	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	梁 田 七 海	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	矢 野 は な	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	山 川 紅 葉	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	山 口 大 輝	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	山 崎 磨 奈	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	山 本 雄 哉	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	吉 田 圭 介	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	吉 田 祥 美	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	若 生 麻弥香	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部助産師	村 田 詠 子	北海道大学病院看護部看護師

平成28年 4月22日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】		
北海道大学病院看護部看護師	蘆 原 操 希	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	近江谷 美 春	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	長 内 絵 里	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	小 野 彩 花	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	木 村 真佑子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	倉 茂 菜 摘	北海道大学病院看護部看護助手

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護師	小 池 大 地	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	近 藤 花 菜	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	佐々木 かおる	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	庄 子 要	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	高 橋 愛 佳	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	田 原 慶 一	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	難 波 加奈子	北海道大学病院看護部准看護師
北海道大学病院看護部看護師	野 坂 康 太	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	芳 賀 司	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	袴 田 侑 衣	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	藤 澤 築	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	松 沢 あずさ	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	松 田 知 佳	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	三 上 紗央里	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	湊 梨緒奈	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	南 亜 弥	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	明 井 遼	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	毛 木 歩 未	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	森 菜々子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	渡 邊 薫 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	渡 邊 咲 瑛	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部助産師	栗 山 智 実	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部助産師	諏訪田 恵 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部助産師	舘 山 奈 菜	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部助産師	宮 脇 伶 奈	北海道大学病院看護部看護師

平成28年 4月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【講師】 (辞職)	岡 田 和 樹	北海道大学病院講師

平成28年 5月 1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院理学研究院教授 大学院薬学研究院教授 産学・地域協働推進機構教授	小 亀 一 弘 中 川 真 一 大 林 明 彦	大学院理学研究院准教授 採用 採用
【講師】 (転出) お茶の水女子大学ヒューマンウェルフェアサイエンス研究教育寄附研究部門講師	中 島 進 吾	大学院保健科学研究院助教
【助教】 大学院保健科学研究院助教 北海道大学病院助教	辻 真太郎 三 上 紗 季	北海道大学病院医療技術部診療放射線技師 採用
【助手】 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助手	佐々木 紫 代	大学院法学研究科助手
【技術職員等】 北海道大学病院薬剤部薬剤助手	菅 野 亮 太	採用



## 新任教授紹介

平成28年5月1日付



理学研究院教授に

こがめ かずひろ  
**小亀 一弘 氏**

生物科学部門多様性生物学分野

## 最終学歴

北海道大学大学院理学研究科博士後期課程退学（平成元年6月）  
 博士（理学）（北海道大学）

## 専門分野

藻類系統分類学



薬学研究院教授に

なかがわ しんいち  
**中川 真一 氏**

創薬科学部門生体機能科学分野

## 生年月日

昭和46年2月6日

## 最終学歴

京都大学大学院理学研究科博士課程修了（平成10年3月）  
 博士（理学）（京都大学）

## 専門分野

分子生物学，発生生物学



産学・地域協働推進機構教授に

おおばやし あきひこ  
**大林 明彦 氏**

安全保障輸出管理分野

## 生年月日

昭和33年8月16日

## 最終学歴

東京大学工学部計数工学科（昭和58年3月）

## 専門分野

安全保障輸出管理

# 資料

## 役 職 員 数

平成28年5月1日現在

部 局 等	職 種	総 長	理 事	監 事	小 計	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	小 計	URA職	専門職	事務職員	技術職員	合 計
役 員		1人	7人	2人	10人											10人
監査室															7	7
事務局	総務企画部												3	90	12	105
	財務部													81		81
	学務部													68		68
	研究推進部													30	1	31
	施設部													9	25	34
附属図書館														89		89
文学研究科・文学部						56	34		9		99	3		16		118
法学研究科・法学部						35	15	1	11	2	64		2	19		85
経済学研究科・経済学部						24	18		6		48		2	8		58
医学研究科・医学部						40	31	18	65	3	157				13	170
医学系事務部														45	2	47
歯学研究科・歯学部						19	17	3	49		88			10	5	103
獣医学研究科・獣医学部						17	13	5	14		49			14	2	65
情報科学研究科						40	29		19		88					88
水産科学院・水産科学研究院・水産学部						29	33	1	15		78				40	118
函館キャンパス事務部														23	4	27
環境科学院・地球環境科学研究院						19	26		7	1	53					53
環境科学事務部														10		10
理学院・理学研究院・理学部						73	69	10	50	2	204		2		18	224
理学・生命科学事務部														42	2	44
薬学研究院・薬学部						16	8	8	23		55				3	58
薬学事務部														10		10
農学院・農学研究科・農学部						44	39	28	14		125				11	136
農学事務部														25	2	27
生命科学院・先端生命科学研究院						10	6	2	10		28					28
教育学院・教育学研究院・教育学部						14	23		4	1	42					42
教育学事務部														8		8
国際広報メディア・観光学院・メディア・コミュニケーション研究院						26	28	2	3		59					59
メディア・観光学事務部														10		10
保健科学院・保健科学研究院						28	11	6	31		76					76
工学院・工学研究院・工学部						94	97	2	92	1	286		1		53	340
工学系事務部														69	3	72
総合化学院																
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部						12	6	3			21					21
北海道大学病院						4	20	47	83		154			118	662	934
低温科学研究所						11	11	1	21		44			9	9	62
電子科学研究所						15	14		23		52				10	62
遺伝子病制御研究所						8	3	4	17		32				6	38
触媒科学研究所						8	6		6		20				6	26
スラブ・ユーラシア研究センター						7	4		4	1	16					16
情報基盤センター						7	4		3		14					14
人獣共通感染症リサーチセンター						6	4	2	3		15				2	17
アイソトープ総合センター						1	1		1		3				2	5
量子集積エレクトロニクス研究センター						3	3				6					6
北方生物圏フィールド科学センター						14	18		11		43			18	71	132
観光学高等研究センター						3	2				5					5
アイヌ・先住民研究センター						1	6		1		8					8
社会科学実験研究センター									1		1					1
環境健康科学研究教育センター							1				1					1
北極域研究センター						1			2		3					3
脳科学研究教育センター																
外国語教育センター																
総合博物館						3	2	2	2		9					9
大学図書館							1				1				1	2
保健センター						1		2			3				9	12
埋蔵文化財調査センター									2		2					2
国際連携研究教育局						5 (18)	(15)	(3)	6 (8)		11					11
技術支援本部																
情報環境推進本部																
アドミッションセンター																
人材育成本部																
創成研究機構							1		1		2		1		8	11
国際本部						4	6		4		14		7	35		56
高等教育推進機構						2	8	1			11				4	15
サステイナブルキャンパス推進本部																
安全衛生本部						2					2		1			3
大学力強化推進本部												11				11
産学・地域協働推進機構						1					1		8			9
総合IR室																
北キャンパス合同事務部														16		16
合 計		1	7	2	10	703	618	148	613	11	2,093	14	27	879	986	4,009

※国際連携研究教育局の教職員数の（ ）内は、北海道大学ユニットの本務者数で内数。当該教職員は、原籍組織の教職員数に計上。  
 (医学研究科：2名、獣医学研究科：3名、情報科学研究科：1名、地球環境科学研究院：3名、農学研究院：10名、先端生命科学研究院：4名、保健科学研究院：1名、工学研究院：3名、北海道大学病院：3名、低温科学研究所：1名、人獣共通感染症リサーチセンター：10名、北極域研究センター：3名)

(総務企画部人事課)

  
 木立をわたる風 北大との新たな出会い—

7月26日  
 北海道大学総合博物館  
 リニューアルオープン！

# 緑のビアガーデン

7.26(火) - 7.29(金) 17:00~20:30  
20:00 オーダーストップ

開催場所

## 北海道大学百年記念会館

札幌市北区北9条西5丁目(正門から徒歩1分)
 ※大規模内はお客様の人数に応じて変更可能。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。



### 編集メモ

- 新緑と花の彩りのコントラストが美しい季節となりました。
- 毎年夏の恒例となっている「緑のビアガーデン」を、7月26日(火)～29日(金)に百年記念会館で開催しま

す。美しい緑のキャンパスで、夕べのひとつときをお過ごしください。皆様お誘い合わせのうえ、ぜひご来場ください。



2015.5.17 丸瀬布森林公園いこいの森（遠軽町）

## 北の鉄道風景 38 森林鉄道蒸気機関車・雨宮21号

森林から伐り出した木材の搬送手段はかつて鉄道が主流であった。このような目的で林産地帯に敷設された軌条を森林鉄道という。旧丸瀬布町に存在していた武利森林鉄道には3両の国産蒸気機関車（SL）が在籍し、それらは木材運搬の任に当たっていた。木材のトラック輸送へのモダリティシフトを理由に、武利森林鉄道は1963年に廃止されたが、3両のSLのうちの1両である雨宮21号が旧丸瀬布町に静

態保存された。18年間の静態保存を経て1980年に動態復元された雨宮21号は、丸瀬布森林公園いこいの森を一周するように敷設された延長2kmの軌条で展示運転されている。写真は新緑の森を駆ける雨宮21号、森林鉄道の現役時代を彷彿させるシーンである。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑤ No.746 平成28年5月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html